

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会
時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
環境技術委員長 坂 本 忠 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第329回)

日 時 平成28年10月19日(水) 午後1時半～4時

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第8会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第8会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、思うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、**窒素と水素からアンモニアを合成する技術**

解説 岩本正和中央大学研究開発機構教授

3、『環境技術関連ニュース NO.154』

解説 中島稔科学技術部会長

報 告 去る9月20日開催の第328回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、思うこと」と題して開会挨拶がありました。部会当日の時点で、すでに4つの大型台風が上陸している。数年前まで台風はハワイやサイパンなどで発生していたが、最近は海水温上昇のせいか台湾や沖縄などで発生することが目立っている。特に地震の被災地など地盤が緩んだ地域に直撃すると更なる土砂災害を及ぼすので、何とか対策を立てて人的被害を出さぬようにしたい。さて、本日のテーマは炭素繊維についてであるが、炭素繊維の用途はゴルフクラブから飛行

機の素材まで様々だが、量産化によって更なる広がりも期待される。

続いて、影山和郎東京大学大学院工学系研究科教授より、「炭素繊維の生産性向上に寄与する新技術」と題して、以下の趣旨の解説がありました。炭素繊維の製造法は、進藤方式と呼ばれる50年前に開発されたものが使われており、日本企業が6割のシェアを持っている。長年の課題として、ポリアクリルニトリル繊維を空气中で酸化させて耐炎化しているが、発熱反応を用いており、時間がかかって生産性には限界があった。今回の技術は、まず繊維に溶解促進剤と酸化剤を加え、液体中で耐炎化工程を行うことによって、生産性を向上させる。そして、加熱工程にもマイクロ波を用いた。マイクロ波は不均一で焼きムラをつくらない工程に苦心した。次に、焼いた後すぐは表面が滑りやすく、樹脂が付きにくいことが生産性を下げていた。そこで、プラズマ表面処理を行って、短時間で樹脂を接着できるようにした。今回の研究は基幹研究であるため、製品化には時間を要するが、欧米があまり手をつけていない分野であるため、今後も更なる生産性向上を目指し、世界をリードして行きたい。

最後に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース NO.153』の解説がありました。今回は、○COP21のパリ協定、年内発効は可能との見通し。○湿度変化で屈伸する薄膜。○温室効果ガス削減では、17自治体が国より高い目標を掲げる。○福島第一原発の汚染水対策の凍土壁、凍りきらず効果に疑問の声。○東京湾の水質汚染の話題。東京五輪までに改善できるのか？○排水から金属を高効率回収する技術。○火力発電所のCO₂を50%回収する実証実験開始。○パームヤシの廃棄物でバイオマス燃料を開発。○藻類がつくるバイオプラスチック原料の製造。○南鳥島沖EEZに有用金属が密集しているとの調査結果。○経産省、重要技術の海外流出阻止へ本腰、などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★当日会費千円にご協力お願い申し上げます。

次回、10月19日（水）の環境技術委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

新規参加希望者は、前日までに履歴書を事務局までFAXにてご提出ください。

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp